



柿沼英樹さん

月曜掲載 柿沼さん「解き応え」求め試行錯誤

「脳トレ」出題 日常からヒント

漢字や数字、図形を使ったパズルなど多彩な問題が好評な「脳トレ」が、今月から毎週月曜日のくらし面掲載に変わった。週の始まりに、より「解き応え、のある問題をと、出題者で認定 NPO法人シーズネット(札幌)の「脳活塾」塾長を務める柿沼英樹さん(58)は意気込んでいる。(編集委員 塚崎英輝)



3文字の 言葉しりとり

①～⑫は3文字の言葉がよみがなのしりとりでつながっています。文字数をヒントにリストから漢字を選んで3文字の言葉を作り、最初の①に入る言葉を漢字でお答えください。また、使わずに残った漢字でできる言葉をお答えください。

① ○○○○○○	⑦ ○い○く○○
② ○き○ざ○	⑧ ○ら○
③ ○○ん○	⑨ ○○よ○づ○
④ ○け○○	⑩ ○んこ○○
⑤ ○う○う○	⑪ ○は○よ○
⑥ ○ぶ○○	⑫ 有頂天

リスト

味	馬	細	月	樂	鎚	連	部	好
頂	爺	猫	俱	仏	間	名	見	工
酒	評	一	流	好	小	三	伯	髮
下	毛	高	下	外	面	樂	乱	馬

出題認定NPOシーズネット「脳活塾」塾長 柿沼英樹

今回の問題の答えを募集します。正解者の中から抽選で5人に3千円分のクオカードと、小樽在住の画家横山文代さんの絵入り扇子を贈ります。
 答えと住所、氏名、年齢、電話番号を書き、郵便(〒060・8711、住所不要)または電子メール(noutore@hokkaido-np.co.jp)で北海道新聞くらし報道部へ。締め切りは12月2日(当日消印有効)。応募は1人1通に限りです。正解は12月7日に掲載し、賞品の発送で当選者の発表に代えさせていただきます。【ファクスでは受け付けません】

「最近、新聞やテレビ番組のちよつとした情報や、散歩中に目にする何げない風景など、見聞きするすべてのことにヒントを求め、問題作りのことばかり考えています」と柿沼さん。休日は古本屋巡りをして過ごすという。脳トレは2016年8月(当時は夕刊に掲載)からほぼ毎週出題し、今月20日掲載分で通常258回に上る。

月1回、読者から答えを募集する懸賞問題には、はがきや封書、メールで毎回2千〜3千通の応募がある。「『コロナ禍で閉鎖的な日常生活ですが、脳トレのおかげで気持ちが満たされました』などと書き添えられたメッセージがうれしく、勇気と力を頂いています」と、手応えや感謝の気持ちを語る。

人気は四字熟語などの漢字問題で、正解者も多い。しかし、例えば、選択肢から漢字を選んでいくつかの

メッセージ多数 勇気と力

言葉を作り、使わずに残った漢字でできる言葉を書き添える設問の場合、前半の答えだけを書いて応募してくる読者も少なくない。正解にたどり着くには、「最後まで気を抜かず解く」ことも肝心なようだ。

10月21日掲載の「串団子数字パズル」から新たな取り組みを始めた。こうした数字や図形を使ったパズルなど、どう解けばよいか迷いそうなの



10月28日掲載の懸賞問題の応募はがきと手紙は計約1760通。このほかメールも約780通寄せられた

問題の場合は、答えに加えて、解き方も載せる。柿沼さんは「どう考えれば早く答えにたどり着けるか、私も試行錯誤しながら作っています。正解だけでなく解くコツも伝えたい方が、問題の面白さや意外性が伝わると思います」。12月に出版するマスを使ったパズルでも解き方を紹介する予定だ。

一方で、「脳トレで難しい問題を作っている人は、さぞしっかっているだろうと思われがちですが、そんなことはありません」と英樹は言う。脳活塾や講演会では、買い物に行っても最初に買おうと思った物を忘れて帰ってしまったエピソードなどをあえて開陳。「大笑いされると同時に、参加した方々は『私たちはまだ大丈夫だね』と安心するようです」。

問題作りを通じて読者に発信していきたいという柿沼さんは、「北海道に関するご当地問題を、読者のみなさんと一緒に作ってみたい」と、今後の目標を話している。